

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400023	事業の開始年月日	平成17年5月1日	
		指定年月日	(平成17年5月1日) 平成20年4月1日	
法人名	社会福祉法人豊笑会			
事業所名	ライフハウス日ノ出			
所在地	(231-0066) 神奈川県横浜市中区日ノ出町2-132-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果 市町村受理日	平成24年1月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>京急線日ノ出町駅から徒歩4分の神社や学校・公園に近い住宅地に有り4階建て屋の3・4階に位置している。バス通りからひとつ入っている為思ったより静かで隣の公園から子供達が遊ぶ声が聞こえてくる環境です</p> <p>1・2階には小規模多機能型居宅介護と通所介護事業所が有り、日常的に交流する機会が多い</p> <p>法人が特別養護老人ホームを運営しており、家族には安心感を与えている</p> <p>ボランティアが定期的に開催する、習字・朗読・車椅子ダンス・手話ダンス・コーラス・剣舞等が利用者に好評である</p> <p>初詣は隣の神社に参り、桜の時期は大岡川へ散歩に行ったり、フロアから見える隣の神社の桜を満喫している</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年11月28日	評価機関 評価決定日	平成24年12月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇理念の「利用者の笑顔」の実現に向けて、フロア会議、リーダー会議で職員間で話し合っており、その実践に向けて努力している。職員が望む事業所の姿として「自分が入りたいホーム」「自分の親を入れたいホーム」を目指している。職員は利用者の意向を汲んで、利用者が明るく、自分がやりたいことのできることを支援している。</p> <p>◇事業所は4階建ての3、4階に位置している。利用者が習字を習うために2階の通所介護施設に行き、その利用者と共にボランティアの指導を受けている。複合施設のメリットを活かしている。</p> <p>◇法人の特別養護老人ホームや他の施設からの情報提供があり、家族に安心感を与えている。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇屋上には菜園があり、利用者と職員が共同で野菜や花を育てている。野菜や花を育てることで利用者に季節を感じて貰える。できた野菜は利用者の食事として提供される。</p> <p>◇月1回、職員と利用者で手作り昼食を行っている。メニューはお好み焼き、手巻きすし、焼きそば、餃子スープなどである。利用者は職員と食材の買物に出かけたり、それぞれでできる範囲で調理に参加している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ライフハウス日ノ出
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は理念を共有し、心を豊かにし、微笑みを持って日々の介護に取り組んでいる	・理念は「日ノ出のお約束」として3階と4階入口に掲示している。利用者の笑顔が理念の基本であり、職員は月1回のフロア会議で確認している。職員は話し合いや声かけを通じて利用者の喜びに繋がり笑顔が得られるよう努力している。	・「日ノ出のお約束」は、文章が長く覚えるのが難しいようです。理念とは別に箇条書きの運営方針などを検討されては如何でしょう。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している お祭りの際に寄付をしたり、餅つきの際は法人所有の臼・杵を貸し出したりしている 地域ボランティアの受け入れや町内のイベントに参加させてもらっている	・町内会に加入しており、回覧板で町内会館で行われるオルガンや歌の演奏会などの行事を知り、利用者が参加している。 ・利用者は、事業所隣の子神社の夏祭りに入る神輿を見るのを楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出・散歩したり、隣の公園に行き、挨拶を交わしたりして地域の方々に理解してもらえる様に、又見学希望者には積極的に見学希望を受け入れ施設内の開放に努めている 福祉体験学習の中学生3～4名を毎年定期的に受け入れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約3か月に1度の会議にて入居者への理解やホームに関する理解してもらえている 会議で出た意見は各フロア会議で報告しサービスの向上に努めている	・運営推進会議は、町内会長、民生委員、ケアプラザ所長、家族代表をメンバーとして、3か月毎に開催している。 ・議題の一つに、事故防止が取り上げられ、家具の角にクッション材を貼り付けた事例がある。	・同一建屋内の小規模多機能型事業所との共同開催などで、運営推進会議を2か月ごとに開催されることが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最近は処遇困難者が少なく、区の健康福祉課に相談する事は無いが、以前は介護度の高い入居者に関して相談をしてアドバイスをもらっていた	・要介護5の全介助の利用者の支援で区の高齢福祉課に相談し、トイレの2人介助等のアドバイスを貰っている。 ・運営推進会議の議事録は、その都度区役所の担当者に届けて報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3・4階がグループホームであり、エレベーターに防止策が無く、危険な為、各フロアの入口はオートロックにしているが、フロア内の移動は自由であり、非常口の施錠は簡単に開けられる。身体拘束をしない様話し合い、転倒リスクの高い入居者はベッドの下に怪我防止の為のマットを敷いたり、ベッドを止めて布団にしている	・身体拘束の禁止をフロア会議で話し合い、転落防止のためのベッドの柵やベッドの位置も拘束になることを確認し、転倒との防止策を講じた。 ・家族お同意を得、安全上入口は施錠しているが、利用者が外に出るときは職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束に関する資料は各フロアに配布されている 入浴時全身チェックを実施し、傷・あざ等の有無を確認し、発見時はいつ・どこで・どの様な時になったのか又なったのであるかを話し合い、事故報告・ヒヤリハットに記載している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料はフロアに配布されていて、会議等でおおまかな内容は伝えられているが、実際には管理者が対応しており、全職員が関係者と話し合いをしたりする事はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学やパンフレット請求時に説明をし、入居契約時にもきちんと説明をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料の請求・領収書発行時にホーム内の様子の報告をしたり、来設時にはお茶を出して話し易い雰囲気作りをしている ご意見ご要望が寄せられた場合は会議時に話し合い・検討をしている 苦情受付用紙が設置されている	・家族の要望で歩行に難がある利用者に、階段を使ったりリハビリを行った。その結果歩けるようになり家族と共に墓参に出かけることができた。 ・毎月の報告に利用者の様子を書いたメッセージを入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議・リーダー会議（管理者・フロアリーダー）・経営推進会議（理事長・施設長・各部門の管理者・リーダー）等の会議により順次職員の意見や提案が報告され、反映されている	・職員の要望は毎月のフロア会議で聞いている。便秘対策として、一部の利用者に出していたヨーグルトを全員に出すようにした事例がある。 ・少人数で外出でするとき、利用者とお茶を飲み、食事をすることも提案して実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新年会は法人主催で毎年開催されている 夏祭りは法人本部や法人内の関連施設の役職者が手伝いに来てくれる等各施設間の交流が持っている 毎月の収入の他に処遇改善手当などの手当が支給されている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年4月・10月に新入職員研修を法人本部主催で実施している 資格支援制度が有りヘルパー2級の資格取得を奨励している グループホーム連絡協議会のグループホーム間の交換研修に参加している 講習会・研修会の資料配布をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会の講習会に参加したり、交換研修の実施により、交流・体験を通じて学んだ事を日々の業務に生かしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを兼ねて本人に会って、本人の生い立ちや家族歴、趣味や嗜好等色々なお話をしたり、お話を聞かせて頂いたりして、お互いに理解できる様に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からお話を傾聴し、相談し易い雰囲気を作る様に努めている 傾聴と受容を基本とし、不安が解消する様、何度でも話し易い雰囲気を持って対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の生活歴・趣味・嗜好等をお聞きし、新しい生活に早く慣れて頂ける様に、又居心地良く過ごして頂けるには？等を中心に支援の見極めと対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の話を良く聞き、会話の時間を努めて取る事により、お互いの理解ができ、同じ時間と空間を共有する者同士としての関係作りをしている 入居者のADLを把握した上で、今後の生活に何が必要か？スタッフ間で話し合っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に来設して頂き、入居者とゆっくり会話して頂く時間を設けて頂ける様にお茶を出している 書面や口頭で入居者の様子を伝え、困り事を相談したりして連携を取っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に来設して頂き、入居者とゆっくり会話して頂く時間を設けて頂ける様にお茶を出している 電話で話をされる方もいる	<ul style="list-style-type: none"> ・家族同伴で、美容院に行き、墓参や外食をする利用者がいる。 ・近所に住んでいた利用者のマンションの前を、散歩の途中で通ることがある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士仲良く、一緒に生活していける様に声掛け・介助・話題作りをしている リビングで一緒に活動する様にしている 共同作業や共同作品作りもしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も年賀状・暑中見舞いを送ったり、電話をしたりしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションを取り、一人一人の要望・意見を傾聴し、入居者の思いを尊重し、意向になるべく沿った日常生活が送れる様に努めている	・利用者の生活歴は、入所時のアセスメントや家族からの情報で把握している。利用者の言葉、仕草、表情から利用者の意向や思いを測って、利用者の希望をかなえるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報や会話の中での情報を把握し、その人らしさを見出し、それを保ち続けられる様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの情報や日々の生活状態を良く見て、一人一人に合った生活支援を目指して話し合い、情報共有をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議で入居者の状況を話し合ったり、日々の業務時にも一人一人にあったケアについて話し合っている。その結果や家族の意見も参考にしている	・ケアカンファレンスをフロア会議時に行なって、居室担当者が一か月分を纏めた文書を提出しケアプランに反映させる。ケアプランの見直しは6か月毎に行っている。家族の意向はケアプラン作成時に聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・申し送りノートへ日々の変化を記入し、毎朝の申し送りで様子を申し送り、各々のスタッフが情報共有して介護の実践をしている。毎月の様子のまとめ等を活用して、介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子観察により本人の様子の変化の把握や家族の希望・要望により対応していく様にしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域の様子を把握し、近隣への散歩、買い物、美容院等の利用をさせてもらっている。歩行の強化の為にフロア内を音楽に合わせて足をなるべく高く上げて歩行訓練等をしたり、毎朝ストレッチ運動をしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、提携医療機関から往診がある 毎週歯科検診の実施 必要に応じて歯科治療の往診もある 体調急変時には緊急での往診対応や看護師が来設し、必要な処置をしてくれている	・利用者全員が事業所の協力医と契約を行っている。内科医が2週間毎に往診、歯科検診が毎週行われている。 ・利用者の通院には職員が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ建物内のデイサービスの看護師に日常の健康管理に関する相談に乗ってもらい、必要時には医療的処置もお願いしている 往診医の所で在宅の担当をしている看護師に色々相談し、助言・処置を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員は必要物品を届けて様子を聞いたり、退院後も症状に応じて、病院側と連絡を取っている 近隣の総合病院の相談室のMSWとすぐ連絡がつく様になっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年の8月から往診医が変更となり、近隣で、在宅も手掛けている医師が往診に来てくれている 緊急時は相談・助言・対応等の実施を医師・看護師がしてくれている 又御家族からも延命処置に対する意思表示を書面にして頂いており、又緊急時の連絡先も明記していただいている	・法人の方針として、重度化した場合には、同法人の経営する特養を紹介しており、入所時家族にも説明している。しかし利用者の状況によっては家族の了解を得て、事業所内で看取ることもある。11月に92歳の利用者を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故時のマニュアルは各フロアに掲示して有り、一人一人の職員にも渡してある 緊急持ち出し品も用意しておりすぐ持ち出せる様になっている 以前に消防署の方から応急手当に関する指導を受けた事はあるが、最近では実施していない 緊急時の対応に関して会議で話し合っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大震災・防火管理責任者の交代が有った等の諸事情により今のところ火災訓練の実施はできていない 12月中には実施予定 災害用のビデオを見たりして、災害への意識は高めている 運営推進会議での話で地域との合同訓練を実施したい旨話している 災害対策用品として水・非常用保温アルミシート・飲料水用ジャグラー・調理用の水用のポリタンクを備蓄し、浴槽には常に水を張っている	・本年度、避難訓練が実施できなかったため、消防署に相談しアドバイスを得て、先ず職員研修を行い12月度には訓練を実施する予定である。 ・3月の東日本大震災の経験から、備蓄品は9L飲料水用ジャグラー、20Lのポリタンクを新たに備えた。	・定期的に避難訓練が行えるよう、体制を見直し強化されることが望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つける様な言葉遣いはしない様に、人生の先輩として尊敬した言葉遣いや対応に努めている	・接遇については新任研修で受けている。利用者への対応については、職員会議で議題にしたり、日常的に話し合いを行なっている。 ・不適切な場面があったら管理者がその場で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全て介助せずに、本人の残存能力を活用できる様な声掛けをするようにしている 本人の意思を尊重し、「やりたい」「できる」という気持ちを大切に出来る様な介助ができる様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決まっているが、利用者の身体状況・意思・希望・ペースに合わせて起床時間・食事時間等を臨機応変に変更して対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物は入居者自身で選んでもらう様にしているが、体調・天候・気候に応じて、職員が声掛け、介助する場合がある		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は決められた献立により食事の提供をしているが、月に1回は職員・入居者全員で食事作りをしている 日々の生活の中で、できる方には、きざみ・合える・盛り付けをお願いしてやってもらったりしている 下膳や食器拭きは無理の無い様に入居者の意思を確認して実施してもらっている	・献立、食材は宅配業者を利用し、フロア毎に職員が作り、利用者は盛り付け、配膳、テーブル拭き、茶碗拭きなどを無理のない範囲で行っている。 ・月に1回は職員と利用者全員で食事作り（手巻きずし、おこのみ焼きなど）を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はタイヘイに依頼しており栄養摂取量・バランスに関しては問題は無いと思われる。食事量・水分摂取量は記録した表により確認できる様になっている。体調・気分により摂取量が少ない方は栄養補助食品で補ったりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後の歯磨きを実施し、週に1回は口腔ケアで専門家に口の中の状態を診てもらって、アドバイスをもらっている。指摘された点は洗面台近くに掲示し、スタッフが日常の口腔ケア時に注意して対応している。夜間は義歯を預かり、洗浄・消毒をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、トイレにて排泄できる様声掛け・誘導をしている	・排泄チェック表に記録し排泄パターンを把握し、利用者に声をかけ、トイレに誘導して自立への支援を行っている。 ・入居時にリハビリパンツだった利用者が布パンツに改善された例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳（オリゴ糖を足す人もいる）、10時にヨーグルトバナナを提供し、食後のトイレ誘導・体操等も実施しているが、それでも便秘してしまう場合は、往診医により処方された緩下剤の服用をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は大体決まっているが（週3回は入浴したい為）、行事・体調により曜日変更をしている。入浴前には、必ずバイタルチェックを実施し、体調管理をすると共に、入浴（通常・短時間）・シャワー・清拭・中止等を決めている	・入浴の基本は週3回としているが、利用者が希望すればできる限り対応している。 ・季節にはゆず湯、菖蒲湯を楽しんでいる。 ・お風呂では職員は利用者がゆっくり入れるようおしゃべりしたり歌を歌ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロア内の温湿度の調整に注意を払い、本人の希望や体調・身体状況により居室で休んでもらう様にしている 又リビングで居眠りをされている場合居室で休む様声掛けして、本人の意思確認をしている（「ここで良い」との答えであればしばらくはそのまま様子を見て、又上記の声掛けをしている）		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の週間壁掛けポケット（曜日と朝・昼・晩の仕切りがある）と袋により分類し、服薬時、誤薬の無い様に、名前の確認をして手渡し・口に入れる等し、飲み込むのを確認してから傍を離れる様にしている 処方薬の説明書は個人ファイルにファイルしており、副作用等についても記載してあるので、必ず目を通す様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	104歳の方のお盆拭きを始めとして各々できる事をお手伝い頂き、役割を持つ喜びをもって頂ける様にしている 残存機能を生かし、少しでも張り合いのある生活をして頂ける様にしている 買い物等もスタッフと一緒に掛けて、気分転換を図ってもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADLの低下等により、希望通りにはいかない事が多いが、こまめに戸外に出る様にしている 春のお花見・秋の紅葉狩り・近くの公園でのピクニック等季節を感じてもらえる様にしている ドライブ・外食等楽しんで頂ける様支援している	・お天気と体調の良い日には利用者は近くの子の神社や大岡川に散歩に出かけている。 ・近くの喫茶店や駅前のランチバイキングに行き、デイサービスの車を借りて花見やもみじ狩りにも出かけている。 ・家族が付き添って、行きつけの美容院や墓参りに行く利用者がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理しているが、御家族の了承を得て手元に現金を持っている人はいる 日用品の買い物時、スタッフと一緒に外出し、買い物を楽しんでいる方もいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙は喜ばれるので、協力して頂いている 手紙のやり取りはご希望が無いのでしていない 定期的に電話を下さる家族もいれば、こちらから電話をするのも了解を得なければならない家族もいるので、その都度支障の無い様に対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面には大型の手作りカレンダー・季節感のある物を掲示している トイレ・浴室などはわかり易い様に表示している 各居室の入り口には表札の他に、扉に名前とその居室の方の写真を貼り分かり易くしている	・居間では利用者が一人または数人でそれぞれ好みの場所に座りお話ししたりテレビを見たりしている。 ・リビングの壁面には担当の利用者が記入した大きな手作りカレンダーやその日の献立を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席の他にソファが有り、各々リラックスした自由な時間を過ごしている又洗面台の横にはベンチが有り、そこで過ごされる方もいる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みをお願いしてお持ち頂いている 本人・家族で居室内の設えはして頂いている その後の変更は、職員と入居者で相談をして実施している 誕生日のお祝いボードやその方の作品を飾ったりしている	・クーラーとクロゼット以外は使い慣れたものや好みのものをそれぞれ用意し、仏壇、テレビ、机、お人形、写真などを持ち込んでいる。 ベッドの他、床にマットを敷いて寝ている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除の手伝い・天気図への記入・お茶のバック詰め等できる事を、無理無くして頂いている 各所に表示をして分かり易くしている又廊下幅が広く取っており、手摺りを設置して安全に移動し易い様にしている		

事業所名	ライフハウス日ノ出
ユニット名	4F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は理念を共有し、心を豊かにし、微笑みを持って日々の介護に取り組んでいる		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している お祭りの際に寄付をしたり、餅つきの際は法人所有の臼・杵を貸し出したりしている 地域ボランティアの受け入れや町内のイベントに参加させてもらっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出・散歩したり、隣の公園に行き、挨拶を交わしたりして地域の方々に理解してもらえる様に、又見学希望者には積極的に見学希望を受け入れ施設内の開放に努めている 福祉体験学習の中学生3～4名を毎年定期的に受け入れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約3か月に1度の会議にて入居者への理解やホームに関しての理解をしてもらっている 会議で出た意見は各フロア会議で報告しサービスの向上に努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最近では処遇困難者が少なく、区の健康福祉課に相談する事は無いが、以前は介護度の高い入居者に関して相談をしてアドバイスをもらったりしていた		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の3・4階がグループホームであり、エレベーターに防止策が無く、危険な為、各フロアの玄関はオートロックになっている。フロア内の移動は自由である。又非常口の施錠は簡単に開けられる様になっている。身体拘束をしない様話し合い、転倒リスクの高い入居者はベッドの下に怪我防止の為のマットを敷いたり、ベッドを止めて布団にしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束に関する資料は各フロアに配布されている 入浴時全身チェックを実施し、傷・あざ等の有無を確認し、発見時はいつ・どこで・どの様な時になったのか又なったのであろうかを話し合い、事故報告・ヒヤリハットに記載している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料はフロアに配布されていて、会議等でおおまかな内容は伝えられているが、実際には管理者が対応しており、全職員が関係者と話し合いをしたりする事は無い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学やパンフレット請求時に説明をし、入居契約時にもきちんと説明をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料の請求・領収書発行時にホーム内の様子の報告をしたり、来設時にはお茶を出して話し易い雰囲気作りをしている。ご意見ご要望が寄せられた場合は会議時に話し合い・検討をしている。苦情受付用紙が設置されている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議・リーダー会議（管理者・フロアリーダー）・経営推進会議（理事長・施設長・各部門の管理者・リーダー）等の会議により順次職員の意見や提案が報告され、反映されている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新年会は法人主催で毎年開催されている 夏祭りは法人本部や法人内の関連施設の役職者が手伝いに来てくれる等各施設間の交流が持っている 毎月の収入の他に処遇改善手当などの手当が支給されている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年4月・10月に新入職員研修を法人本部主催で実施している 資格支援制度が有りヘルパー2級の資格取得を奨励している グループホーム連絡協議会のグループホーム間の交換研修に参加している 講習会・研修会の資料配布をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会の講習会に参加したり、交換研修の実施により、交流・体験を通じて学んだ事を日々の業務に生かしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを兼ねて本人に会って、本人の生い立ちや家族歴、趣味や嗜好等色々なお話をしたり、お話を聞かせて頂いたりして、お互いに理解できる様に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からお話を傾聴し、相談し易い雰囲気を作る様に努めている 傾聴と受容を基本とし、不安が解消する様、何度でも話し易い雰囲気を持って対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の生活歴・趣味・嗜好等をお聞きし、新しい生活に早く慣れて頂ける様に、又居心地良く過ごして頂けるには？等を中心に支援の見極めと対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の話を良く聞き、会話の時間を努めて取る事により、お互いの理解ができ、同じ時間と空間を共有する者同士としての関係作りをしている 入居者のADLを把握した上で、今後の生活に何が必要か？スタッフ間で話し合っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に来設して頂き、入居者とゆっくり会話して頂く時間を設けて頂ける様にお茶を出している 書面や口頭で入居者の様子を伝え、困り事を相談したりして連携を取っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に来設して頂き、入居者とゆっくり会話して頂く時間を設けて頂ける様にお茶を出している 電話で話をされる方もいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士仲良く、一緒に生活していける様に声掛け・介助・話題作りをしている リビングで一緒に活動する様にしている 共同作業や共同作品作りもしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も年賀状・暑中見舞いを送ったり、電話をしたりしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションを取り、一人一人の要望・意見を傾聴し、入居者の思いを尊重し、意向になるべく沿った日常生活が送れる様に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報や会話の中での情報を把握し、その人らしさを見出し、それを保ち続けられる様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの情報や日々の生活状態を良く見て、一人一人に合った生活支援を目指して話し合い、情報共有をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議で入居者の状況を話し合ったり、日々の業務時にも一人一人にあったケアについて話し合っている。その結果や家族の意見も参考にしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・申し送りノートへ日々の変化を記入し、毎朝の申し送りで様子を申し送り、各々のスタッフが情報共有して介護の実践をしている。毎月の様子のまとめ等を活用して、介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子観察により本人の様子の変化の把握や家族の希望・要望により対応していく様にしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域の様子を把握し、近隣への散歩、買い物、美容院等の利用をさせてもらっている。歩行の強化の為にフロア内を音楽に合わせて足をなるべく高く上げて歩行訓練等をしたり、毎朝ストレッチ運動をしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、提携医療機関から往診がある 毎週歯科検診の実施 必要に応じて歯科治療の往診もある 体調急変時には緊急での往診対応や看護師が来設し、必要な処置をしてくれている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ建物内のデイサービスの看護師に日常の健康管理に関する相談に乗ってもらい、必要時には医療的処置もお願いしている 往診医の所で在宅の担当をしている看護師に色々相談し、助言・処置を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員は必要物品を届けて様子を聞いたり、退院後も症状に応じて、病院側と連絡を取っている 近隣の総合病院の相談室のMSWとすぐ連絡がつく様にしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年の8月から往診医が変更となり、近隣で、在宅も手掛けている医師が往診に来てくれている 緊急時は相談・助言・対応等の実施を医師・看護師がしてくれている 又御家族からも延命処置に対する意思表示を書面にして頂いており、又緊急時の連絡先も明記していただいている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故時のマニュアルは各フロアに掲示して有り、一人一人の職員にも渡してある 緊急持ち出し品も用意してありすぐ持ち出せる様になっている 以前に消防署の方から応急手当に関しての指導を受けた事はあるが、最近では実施していない 緊急時の対応に関して会議で話し合っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大震災・防火管理責任者の交代が有った等の諸事情により今のところ火災訓練の実施はできていない 12月中には実施予定 災害用のビデオを見たりして、災害への意識は高められている 運営推進会議での話で地域との合同訓練を実施したい旨話している 災害対策用品として水・非常用保温アルミシート・飲料水用ジャグラー・調理用の水用のポリタンクを備蓄し、浴槽には常に水を張っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つける様な言葉遣いはしない様に、人生の先輩として尊敬した言葉遣いや対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全て介助せずに、本人の残存能力を活用できる様な声掛けをするようにしている 本人の意思を尊重し、「やりたい」「できる」という気持ちを大切に出来る様な介助ができる様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決まっているが、利用者の身体状況・意思・希望・ペースに合わせて起床時間・食事時間等を臨機応変に変更して対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物は入居者自身で選んでもらう様にしているが、体調・天候・気候に応じて、職員が声掛け、介助する場合がある		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は決められた献立により食事の提供をしているが、月に1回は職員・入居者全員で食事作りをしている 日々の生活の中で、できる方には、きざみ・合える・盛り付けをお願いしてやってもらったりしている 下膳や食器拭きは無理の無い様に入居者の意思を確認して実施してもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はタイヘイに依頼しており栄養摂取量・バランスに関しては問題は無いと思われる 食事量・水分摂取量は記録した表により確認できる様になっている 体調・気分により摂取量が少ない方は栄養補助食品で補ったりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後の歯磨きを実施し、週に1回は口腔ケアで専門家に口の中の状態を診てもらって、アドバイスをもらっている 指摘された点は洗面台近くに掲示し、スタッフが日常の口腔ケア時に注意して対応している 夜間は義歯を預かり、洗浄・消毒をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、トイレにて排泄できる様声掛け・誘導をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳（オリゴ糖を足す人もいる）、10時にヨーグルトバナナを提供し、食後のトイレ誘導・体操等も実施しているが、それでも便秘してしまう場合は、往診医により処方された緩下剤の服用をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は大体決まっているが（週3回は入浴したい為）、行事・体調により曜日変更をしている 入浴前には、必ずバイタルチェックを実施し、体調管理をすると共に、入浴（通常・短時間）・シャワー・清拭・中止等を決めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロア内の温湿度の調整に注意を払い、本人の希望や体調・身体状況により居室で休んでもらう様にしている 又リビングで居眠りをされている場合居室で休む様声掛けして、本人の意思確認をしている（「ここで良い」との答えであればしばらくはそのまま様子を見て、又上記の声掛けをしている）		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の週間壁掛けポケット（曜日と朝・昼・晩の仕切りがある）と袋により分類し、服薬時、誤薬の無い様に、名前の確認をして手渡し・口に入れる等し、飲み込むのを確認してから傍を離れる様にしている 処方薬の説明書は個人ファイルにファイルしており、副作用等についても記載してあるので、必ず目を通す様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	104歳の方のお盆拭きを始めとして各々できる事をお手伝い頂き、役割を持つ喜びをもって頂ける様にしている 残存機能を生かし、少しでも張り合いの有る生活をして頂ける様にしている 買い物等もスタッフと一緒に掛けて、気分転換を図ってもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADLの低下等により、希望通りにはいかない事が多いが、こまめに戸外に出る様にしている 春のお花見・秋の紅葉狩り・近くの公園でのピクニック等季節を感じてもらえる様にしている ドライブ・外食等楽しんで頂ける様支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理しているが、御家族の了承を得て手元に現金を持っている人はいる 日用品の買い物時、スタッフと一緒に外出し、買い物を楽しんでいる方もいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙は喜ばれるので、協力して頂いている 手紙のやり取りはご希望が無いのでしていない 定期的に電話を下さる家族もいれば、こちらから電話をするのも了解を得なければならぬ家族もいるので、その都度支障の無い様に対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面には大型の手作りカレンダー・季節感のある物を掲示している トイレ・浴室などはわかり易い様に表示している 各居室の入り口には表札の他に、扉に名前とその居室の方の写真を貼り分かり易くしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席の他にソファが有り、各々リラックスした自由な時間を過ごしている又洗面台の横にはベンチが有り、そこで過ごされる方もいる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みをお願いしてお持ち頂いている 本人・家族で居室内の設えはして頂いている その後の変更は、職員と入居者で相談をして実施している 誕生日のお祝いボードやその方の作品を飾ったりしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除の手伝い・天気図への記入・お茶のパック詰め等できる事を、無理無くして頂いている 各所に表示をして分かり易くしている又廊下幅が広く取っており、手摺りを設置して安全に移動し易い様にしている		

目標達成計画

事業所名

ライフハウス日ノ出

作成日

平成24年1月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	定期的な防災訓練がなされていない。	定期的な防災訓練を行えるよう体制を見直し強化する。	前任の防火管理者の退職により、避難訓練等が未実施の状態が続いたが、新任者が決まり消防署と相談しながら、防火計画を立てているので、それに基づき定期的実施する。	3か月～半年
2	4	運営推進会議が2か月毎に実施されていない。	運営推進会議を2か月毎に実施していく。	次回の運営推進会議で、出席者に説明し協力をお願いする。	半年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。